



議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係 員

行政視察報告書

令和6年11月20日

笠岡市議会議長 殿

(出張者)議員 仁科 文秀 (印) 議員 山本 聡 (印)
議員 井木 守 (印) 議員 大月 隆司 (印)
議員 齋藤 一信 (印) 議員 西山 博行 (印)
議員 宮崎 秀夫 (印) 議員 村上 太志 (印)
議員 藪田 誠二郎 (印) 議員 山下 恭司 (印)

下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

記

【1】 岐阜県 岐阜市議会

住 所	岐阜県岐阜市司町40番地1
電 話	058-265-4141
視察案件	自動運転バス運行の取組について
期 日	令和6年11月11日(月)13時30分から16時00分
応 対 者	議会事務局議事調査課 課長補佐 高木紀和 氏 議会事務局議事調査課 議事記録係長 中谷慎也 氏 都市建設部コンパクトシティ推進審議監兼都市計画課長 神戸智史 氏 都市建設部交通政策課長 川田 真樹 氏 都市建設部交通政策課 主幹兼交通施策推進係長 宇野真由美 氏 BODLY株式会社 市場創生部社会実装課 郷 直人 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	岐阜市役所
概 要	○岐阜市議会事務局議事調査課 高木課長補佐 あいさつ ○笠岡市議会 仁科委員長 あいさつ ○自動運転バス運行の取組について 岐阜市は岐阜県の中南部に位置する人口約40万人、面積203.60km ² の中核市である。 岐阜市では、運転手の人手不足が続く中、お年寄りなどのために身近な交通機関を確保しようと2019年度から自動運転技術導入に向けた取組を行っ

ている。段階的に自動運転バスの実証実験を行い、2023年11月からは中心市街地では全国初となる自動運転バスの継続運行がスタートした。

運行体制

自動運転車両運行に係る公募型プロポーザル（R5.4.10～5.26）を実施し、BOLDLY（株）を選定

運行主体：岐阜市

運行管理：BOLDLY（株）

オペレーター・遠隔監視者：岐阜乗合自動車（株）、（株）日本タクシー

運行ルートは、岐阜駅から市役所までの中心部ルート（平日・土日祝運行）と岐阜駅から川原町や岐阜公園などの観光地を周遊する岐阜公園ルート（土日祝運行）の2つがあり、運賃は無料であるが、乗車については原則予約制で電話またはLINEによる事前予約が必要となる。

現在は、バスにオペレーターが同乗し、状況に応じ手動で操作する「レベル2」であり、運行の際に路上駐車や対向車などを避ける場合は、オペレーターが手動で運転の補助を行う。

5年間継続運行する中で、段階的にインフラ整備を進めるとともに社会受容性の向上を図りながら、令和9年度までに特定の条件下でシステムに全操作を任せる「レベル4」での自動運転の実装を目指している。

また、将来的には市内中心部のみならず、郊外での自動運転バスの運行も視野に入れており、今後、持続可能な公共交通とするため、自動運転を様々な地域へ広く展開するための運行体制の構築を押し進めている。

（所感）

【運転手不足】

全国どの自治体・事業者においても、運転手不足は深刻で、今後、大きな問題となる。そのため、「バスの自動運転」の実証実験を進める自治体が増えてきている。

【岐阜市では】

岐阜市は市長に進取の気質があり、積極的に「トップランナー」を目指して取り組んでいる。第一に、「GIFU HEART BUS」の真っ赤な車体が強く印象に残った。岡山市出身の水戸岡鋭治氏のデザインで、不変的なチャレンジ、革新の色だそうだ。

説明していただいた職員も自信に満ちていた。他の自治体から毎週のように視察に来るので、市内への宿泊者が増えて、岐阜市の経済効果も上がっていると視察を前向きにとらえている。メディアによる報道、全小中学校の体験乗車、市内を走ることによるPRなど、周知・啓発活動にも熱心である。かかる費用は、5年間で7.2億円（車のリース、電気代、人件費など）、うち6～7割は10/10の国の補助があるという。

	【笠岡市での検討の可能性】 岐阜市のような大きなまちの、特に中心部での導入が効果的である。しかし、すでに自動運転バスを定常運行している茨城県境町や試験運行レベル4まで進めている福井県永平寺町は、いずれも大きなまちではない。 実証実験にかかる費用を懸念していたが、思ったほど大きいものではない。笠岡市には中心部がなく、観光面でも財政的にもすぐには無理があるが、福山市などの近隣でも実証実験が始まっており、今後、情報収集をしながら、検討、研究していきたい。
	○自動運転バス（GIFU HEART BUS）試乗
	○ぎふメディアコスモス、議場見学
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【2】 岐阜県高山市 高山市議会

住 所	岐阜県高山市花岡町2丁目18番地
電 話	0577-35-3152
視察案件	地域交通について
期 日	令和6年11月12日（水）10時00分から11時30分
応 対 者	高山市議会 議長 渡辺甚一 氏 議会事務局 書記 西野絢介 氏 都市政策部都市計画課 政策企画係長 柚村守一 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	高山市役所
概 要	○高山市議会 渡辺議長 あいさつ
	○笠岡市議会 仁科委員長 あいさつ
概 要	○地域交通について 高山市は岐阜県の北部に位置し、人口は約8万3,000人、面積2,177.61㎢で全国で面積が最も広い市である。 地域公共交通として、通勤、通学、通院、買物などの移動を確保するため、交通事業者が運行する「幹線バス」のほか、高山市が事業主体となり地域内の移動を確保して主要なバス停で幹線との接続を図る地域バス「のらマイカー」、中心市街地の公共施設や病院、商店街、観光施設などを短時間で巡回する中心市街地バス「まちなみバス」、中心市街地と中心市街地外縁部の大型駐車場を結ぶ観光特化型バス「匠バス」を運行している。 このほか、交通空白地においては、交通空白地有償運送を導入し地域団体である高根まちづくりの会が事業主体（市の運営費補助10/10）となり

	「たかね号」を運行している。 運賃については、交通事業者が事業主体の幹線バスのみ距離による運賃制度であるが、そのほかの「のらマイカー」、「まちなみバス」、「匠バス」、「たかね号」は、距離を問わず100円であり、小学生未満は無料としている。 加えて、高校生以下の利用者が自主運行バスに無料で乗れる「ヤングパスポート事業」を令和3年4月から開始しており、幼少期より公共交通を利用することで、社会性（マナーやルール）の醸成や将来の利用者確保のほか、家族の移動や送迎の負担軽減、利用促進を図っている。そのほか、65歳以上の方や障害者手帳の所有者、難病療養者には年間6,000円で乗り放題となる「おでかけパスポート」を販売するなど、様々なサービスを実施している。 また、より効率的で効果的な運行を行うため、バスの利用者が少ない地域においては、平成25年4月から小型車両によるデマンド運行を開始しており、地域の実情に応じた持続可能な公共交通体系の構築を目指している。 (所感) 【高山市】 高山市は2,177㎢と、全国最大の市域を有している。中心部は、年間470万人の観光客がありにぎやかであるが、周辺部は交通の便が悪い地域が多い。そのため、中心市街地バス、観光特化型バス、幹線バス、地域バス、交通空白地有償運送など、様々なバス体系を駆使している。 【笠岡市では】 現在の笠岡市のことを考えて、私が一番関心を持ったのは、高山市の周辺部に展開する、のらマイカーを含むデマンドタクシーの活用である。 予約を入れて乗るという煩わしさはあるが、本市でも幹線以外の地域に導入して、交通弱者の便宜を図ることができる。神島で行った乗合交通の実証実験も大切なデータとなるもので生かしていただきたい。 高山市が実施している「ヤングパスポート」「おでかけパスポート」などの制度も取り入れながら、幼少期から高齢者・障害者までの市民全体の利用促進を図りたい。
	○笠岡市議会 山本副委員長 あいさつ
	○議場見学
	添付書類 視察資料 視察状況写真 名刺

【3】 岐阜県 土岐市議会

住 所	岐阜県土岐市土岐津町土岐口2101
電 話	0572-54-1273
視察案件	新庁舎建設事業について
期 日	令和6年11月13日(水) 9時30分 から11時00分
応 対 者	土岐市議会 議長 西尾隆久 氏 議会事務局 次長 兼総務課長 鵜飼保仁 氏 議会事務局 総務課総務係長 近藤直美 氏 総務部 管財課長 安藤算倫 氏 総務部 管財課施設係長 加藤唯之 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	土岐市役所
概 要	○土岐市議会 西尾議長 あいさつ
	○笠岡市議会 仁科委員長 あいさつ
	土岐市は岐阜県の東南部に位置し、南は愛知県瀬戸市、豊田市と接しており、人口は約5万5,000人、面積は116.16㎦で、その約7割を丘陵地が占めている。 土岐市では、旧庁舎(昭和41年建設)の老朽化が進み、耐震診断では倒壊の危険性が示され、バリアフリー化、IT化などの対応も限界に達していたことから、平成24年11月に新庁舎建設を表明され、新庁舎の建設がスタートした。 新庁舎の建設に当たっては、3つの基本方針「1. 安全・安心を支える庁舎」、「2. 利用者にやさしい庁舎」、「3. 経済的・効率的で環境に配慮した庁舎」を掲げ、今後の土岐市のまちづくりの先導的な役割を果たし、未来へと受け継がれていく庁舎を目標とした。 平成29年10月から工事着手を行い、旧庁舎を運用しながら仮設庁舎をつくることなく、順次建替を行う手法により実施され、平成31年3月に新庁舎が開庁した。また、令和2年1月に駐車場整備や外構工事などの全ての工事が完成したことから、令和2年2月に新庁舎のグランドオープンイベントを行っている。 新しい庁舎は、土岐のまちになじむよう高さを低層3階建てに抑え、美濃焼のまち土岐市ならではの焼き物技術を集結したタイルや県産木材、タイルカーペットの染色加工など、地域にゆかりのある材料を用いて整備されており、長年培われた地場技術を駆使したつくりとなっている。 また、新庁舎の正面には、祝祭空間、防災広場、駐車場として機能する多目的広場「土岐フォーラム」を設け、東に既存文化施設、中央に行政ゾーン、西に独立性のある議会ゾーンを配置することで、全ての機能が土岐フォーラムに面しており、市民、行政、議会が一体になれる開かれた庁舎を体現している。

庁舎の概要

敷地面積	23,913.91 m ²
建築面積	10,071.60 m ² (うち新庁舎棟 4,274.62 m ²)
延床面積	18,801.94 m ² (うち新庁舎棟 9,703.89 m ²)
階 数	地上3階
工 期	平成 29 年 9 月 28 日～令和 2 年 1 月 31 日
事業費	50 億 9,759 万円 ※財源内訳 基 金 18 億 993 万円 地方債 32 億 6,740 万円 一般財源 389 万円 国庫支出金 347 万円 県補助金 1,290 万円 合 計 50 億 9,759 万円

(所感)

【土岐市新庁舎を視察して】

まず、驚いたのが敷地の広さ。「土岐フォーラム」と言われる多目的広場。この広さの確保は、笠岡市では干拓地以外では無理だと思う。

計画から建設まで、やはり7年のはかかるので、築70年を迎え、I s 値が土岐市より低く、倒壊の危険性が高い本市では早く取り組まなければいけないことを実感した。

ワークショップ、パブリックコメントなど、市民の意見をしっかり聞き、風通しのよさ、多目的、市民の利用スペース、議場の多目的利用などの項目を実現している。

3階建てと低層であるため、免震構造までは必要ではなく、耐震構造としたことで、4.8億円の費用の圧縮ができたという説明も理解できた。

新庁舎は、隣の文化プラザと回廊で結ばれており、機能の補完、相互利用がしやすくなっている。また、1階部分は外と内との段差がないバリアフリーとなっている。

【笠岡市新庁舎を建てるに当たって】

建替の必要性・緊急性については、多くの市民が理解している。今後、具体的な計画案ができた段階で、ワークショップやパブリックコメントを求め、市民に愛され親しまれる庁舎にしていく必要がある。できるだけ早く建て替えた。

土地の広さが確保できれば、3階建て程度にし、免震構造よりも経費の削減が可能な耐震構造も考えられる。そうすれば、耐震性に係る維持管理費も不要となる。

	○庁舎見学
	○議場見学
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺